



## 英 国 雑 感

岸 興 作\*

英国 Science Research Council の Senior Visiting Fellow として、M. W. Roberts 教授 (Bradford 大学) の研究室で、49年7月より1年半、表面科学の研究をして帰りましたが、その間私の垣間見た英国を御紹介致します。

## ブラッドフォード

ブラッドフォードはイングランド北部のヨークシャーにあり、「嵐ヶ丘」等で有名なブロンテ姉妹の住んだ教会に近く、元々羊毛工業の栄えた地方都市で、人口約35万、そのうちパキスタンなどからの移民労働者数が一割以上と変わった所です。今になって移民に反対する白人グループのデモが警察官を巻き込んで乱闘する様子が日本の海外ニュースで報道されたことがあります。ブラッドフォード大学は英国で最も新しく創立(1966年)された大学の一つで、旧来のレンガ造りの大学に対していわゆるガラスの大学です。英国の大学では普通イングランドで3年制、スコットランドなどでは4年制と聞きましたが、ブ大は4年制で、途中1年間は民間で実習する制度で、大学で講義する側にも良い刺激になっているようです。

英国の大学における海外留学生の数は実に多く、ブ大でも、まるで、年々横這あるいは減少する英国人大学生の穴を埋めるかのように、アジア、アフリカ、アラブ等の諸国から沢山集っており、国民性もいろいろの学生と接するのは楽しいものでした。英国留学の第一の利点は英語にあるようで、古き良き大英帝国(英国人が笑ってそう言ったのですが)の影響(強制?)により英語が日常語あるいは非常に重要で、大学での講義が英語や英語教科書を用いる頻度の高い国が多いからです。次にもっと現実的な理

由は、学士あるいは博士の学位が短期間(母国より短いこともある)で、しかも割合容易に取得できるからだそうで、日本には、語学および修学年数の点でとても行く気になれないそうです。このことも一因で、これら諸外国人が、後記英国人と同様、教養の高い層でさえ全く日本について知らないあるいは、全く私達には想像もできない誤解をしているようであります。

## ソーセージ

英国に留学する息子を前に日本人の父親が、英国にはソーセージという旨い物があると説明し、息子がフォークを剣のごとく振りかざしてソーセージに飛掛る場面をテレビコマーシャルで見ました。その後で、知人の奥さん(教養高い人)から、日本にはソーセージがあるかと聞かれました。一般の英国人など全く日本のことなど知らないのです。それ故テレビコマーシャル等が情報源になっていて、日本でもよく見掛けますが、外国の風俗習慣を茶化してその国の人の神経を逆撫ですることが多く、誤ったイメージ作りの一因となっています。化粧品に Hihkarate と名付けて空手でおどけて見せるなどは御愛嬌だが、「日本では日常生活で空手を使うのか」などと真顔で聞かれることになるのです。帰国時に、「冷蔵庫や洗濯機を買って日本に送ったか」等の質問を受け真意が掴めず返答に窮したものです。日本では家電品等はほとんど国産で間に合い、それが当然のように思っていますが、実はそのような国は非常に少く、テレビやオーディオ製品は日本から輸入されているが、洗濯機等は輸入されていない。従って作られていないのではと誤解した為の質問だったので。日本で当然と思っていたことが、実はそうでないと言う事実は何度となくハッとしました。英国人の日本に対する誤解は一般に彼等の優越感と結びついているようで、日本人の英

\* 岸興作 (Kosau KISHI), 大阪大学, 理学部, 化学科, 助手, 理学博士, 表面化学

国に対する誤解は劣等感と結びついているようであり、英国は紳士の国だということで、飛行機がロンドン近くになってネクタイを締めたという日本人団体旅行者の真面目な話を聞きます。日本の某新聞の記事中、英国の学校には途轍もなく広い芝生があり、教育にかける熱意の程が窺えるなどとありましたが、この特派員氏ひょっとして、日本における芝や土地に抱くイメージで判断したのではないのでしょうか。ブラッドフォード市などでは新築庭付きで500万円位からありますし、イングランドには高い山がなく広々としているのです。日本中勉強塾ばかりで、小中学生まで精神病者、自殺者が出ることは非常に悲しいことで、このような状態よりは良いとは思いますが、全くのんびりとした英国の学校にも悩みはあり、無気力な子、多くの盗み経験者、文盲者等の社会問題が新聞でも取り上げられていました。

#### ヨークシャープディン

ヨークシャープディンと言え、肉料理ともに出されることが多く、御存知の方も多いでしょうが、小麦粉、卵、塩などを材料とします。五十代の工場労働者が話してくれたのですが、今でこそ肉料理の添物として小さいのが出るが、その人が子供の頃は母親の作ってくれるヨークシャープディンは、非常に大きくて、貧しい食生活の中で満腹感を与える為に食べたのだそうで、日本人が米や麦だけで腹を膨らませるのと同じだと言っていました。また、英国というピフテキばかり食べてるように御考えの方が多いようですがそうではなくて全く質素なのです。ある大学講師から聞いたのですが、英国人が今のように肉をたくさん（私にはそれ程多く思われなかったのですが）食べるようになったのは第二次大戦後だそうで、それまでは、小麦製品、ジャガイモなどが主だったそうです。大英帝国と言えども一般人は質素な食生活だったのでしょう。寒さはそれ程厳しくないが日光に恵まれず、土地は広いが大して農作物が穫れず、値段の高い工業製品を輸出して諸外国から安い農作物を買うこととなり、酪農業などが細々と残ることになったのでしょうが、後発国が工業製品の強力な競争相手となった今、それが

裏目に出たようで、少い労働時間でなおかつ生活程度を上げるなどは到底覚束ないのです。安かった農作物もポンドの度重なる下落で次第に高くなっているのです。日本が日光や水に恵まれているにもかかわらず、西洋文化の裏にある必然性をも顧みず、先祖伝来の田畑を捨て、効率の悪い酪農型の食生活を志向あるいは推奨してきた第二次大戦後の我が国の農業政策を早急に検討し変更しなくてはならないのではないだろうか。何と言っても食なしの生活は考えられないのだから。

余談ですが、ヨークシャーには別の有名なプディンがあります。ブラックプディンと言って、牛の血を、王葱や香辛料とともに腸詰めして蒸したもので、色は黒く、味はレバーのようだがあっさりとして柔らかく大変美味ですが、地元の人の中にも気味悪がって食べない人がいますが、精力剤として効験あらたかと聞きました。

#### オートバイ

テレビニュースでは、ほとんど毎日と言ってよい程、北アイルランド関係およびストライキ関係のニュースが報道されていました。私は労働問題のことはよくわかりませんが、俗に「英国病」といわれる状態について考える機会を持ちました。基幹産業等の設備近代化の遅れ、階級意識、賃上要求等の長期スト等により経営が急速に悪化する姿を見ました。ストライキといっても、例えば自動車会社では部門別にストを行うので、流れ作業の自動車会社では完成品ができず、その間他の部門では一部の人が臨時解雇となり互いに非難しあう場面をよく見掛けました。自動車産業の不況は日本車などの輸入増が原因であると規制を求め、日本車が自己規制するとEC諸国からの輸入増となり、現在輸入車の比率が30%を越えているようであり、国際収支改善の為国産品を買おうとある国会議員の音頭取りでキャンペーンが行われましたが、大衆紙が直ぐに、「やれるものならやってみろ」と、価格や納期等の点で実行不可能な例を数多く掲載しておりました。

英国はかつてオートバイの名車を世に送り出した国ですが、最後に残った一社が倒産の危機

に陥った時、テレビでその原因解明の放送を行っていましたが、始めマン島にカメラを持ち込んだ日本人が次第にオートバイを持ち込み、白人専用であったオートバイの小型、小排気量化で一般化を計り市場を独占していったのに対して、大排気量で白人専用的高级車を指向した英国のオートバイ産業の倒壊した過程を描いていましたが、その番組の終りに、これはオートバイ産業に対するものではなく、実は同じ過程を歩む自動社会社に対する警鐘なのだと結んでいました。製鉄等の基幹産業の慢性赤字に対して近代化、合理化の代りに縮小化を急いでいる感じを受けました。また、折角近代化したのに組合の反対で操業できず結局は整理縮小、首切りに進む例を見ました。産業全体が高級品化を目指し、付加価値の高い製品を目指して、一見合理的のようではありますが、工業国であるのに一般工業製品の価格が高く、外国製品に押され、結局国際収支改善のつもりが悪化に向っているように思いました。日本の産業構造を付加価値の高い製品を生み出す方向に変えようと言われておりますが、前に述べた農作物と同様、これも行き過ぎると裏目に出る恐れはないのでしょうか。

英国労働党による産業国有化を資本主義国の社会主義化過程の御手本と考えこの実験を賞賛される方が日本に多くおられるようですが、理

想はともかく、現状では、経営改善の努力を放棄し赤字倒産した会社を莫大な税金を使って国有化しても、会社側労働者に深刻な反省がないから赤字が増大し、国民に対する負担増となって帰っているようであります。

日本でよく英国人失業者の高待遇や英国の高福祉を紹介する記事や報道番組を見かけますが、実際は私達の想像する程甘くはないのです。英国で極貧層救済のキャンペーン番組を見ましたがとても悲惨なのです。私のような者でも、税金、年金掛金、等で給料の約三分の一が持って行かれるのです。福祉社会実現は日本にとっても重要な課題ですが、福祉先進国といわれる英国の悪い面を克服する面での議論がもっとあっても良いのではないのでしょうか。

以上英国社会の持つ悩み等を肌で感じてきましたがこれは全く日本社会の持つあるいは持つかもしれない悩みなのであります。英国の自動車産業が、わかっていながらオートバイ産業の過程を歩んでいるように、全ての面で英国等を手本としてきた日本が英国の歩んだ過程の悪い面を辿ってゆく恐れはないのでしょうか。

種々分野で最高級品を作れる実力を持ち、基礎分野の研究に力をいれ、現在割高とはいえ北海油田を持つ英国は、一度切掛を握れば再び飛躍する大きな可能性を秘めていると思いますが、日本の場合はどうなのでしょう。